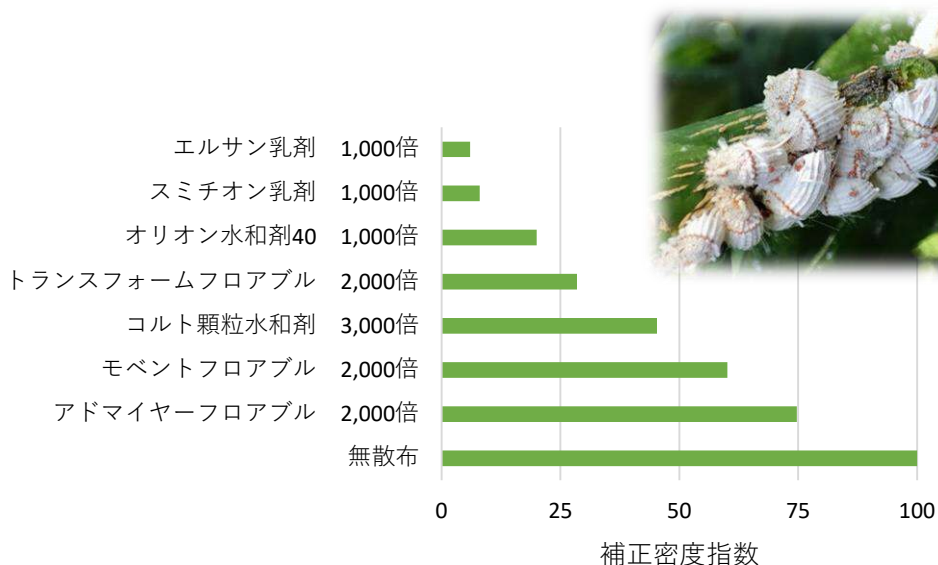
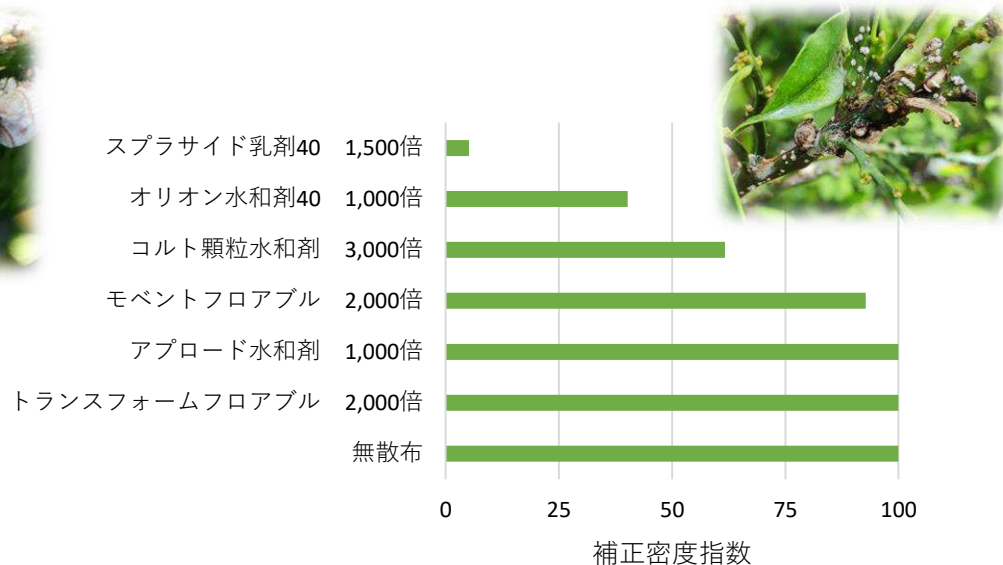


かんきつのカイガラムシ類に対する各種薬剤の防除効果

各種カイガラムシ類に対して効果の高い薬剤（スプラサイド剤）の登録失効が予定されていることから、イセリヤカイガラムシ・ツノロウムシに対する各種薬剤の効果について検討した。



イセリヤカイガラムシに対する各種薬剤の防除効果
※供試薬剤はスミチオン乳剤以外はカイガラムシ類に登録がある。
令和4年8月12日幼虫と成虫が混在する中での散布
8月27日（散布15日後）調査



ツノロウムシに対する各種薬剤の防除効果
※供試薬剤は全てカイガラムシ類に登録がある。
令和4年7月17日2齢幼虫後期が主体の時期に散布
9月11日（散布58日後）調査

イセリヤカイガラムシ

有機リン剤であるエルサン乳剤、スミチオン乳剤の効果が高かったが、カイガラムシ類に登録のある薬剤でも成虫・幼虫が混在する中では、十分な防除効果が得られない場合があった。

ツノロウムシ

有機リン剤であるスプラサイド乳剤40の防除効果が高かったが、それ以外の薬剤の防除効果は十分ではなく、今回のような2齢幼虫後期の散布では全く効果が得られない剤もあった。

今後の課題

・有機リン剤以外の薬剤について、それぞれの薬剤特性に合わせた防除適期の再検討が必要。